

# かつの微生物農法研究会便り

H21.2.1 Vol.2

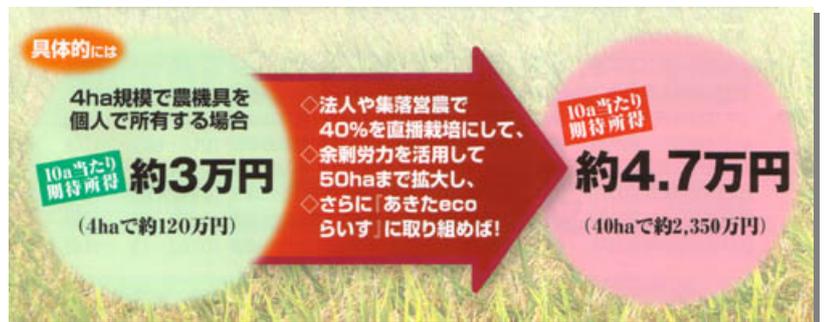


十和田湖の冬季イベント「十和田湖冬物語」。

前進あるのみ。

風邪も流行しているようですが不景気の話もよく聞く昨今、あまり良いニュースが聞かれないのは寂しいことです。当地のような地方農村では、正直、もう10年以上前から景気はどん底でしたので、今の急激な不景気というのもピンとこないのが本音だったりします。私達『花輪ばやし』の生産者グループでは、多くの方に好んでいただける美味しいお米作りに独自に取り組んで頑張っておりますが、地元の大数の生産者は、農業だけでは実質生きていけない状況にあります。例えば下の

矢印が付いた図、これは秋田県の米生産者向けパンフレットの一部分ですが、現状の田んぼ10aあたりの所得が約3万円という試算になっています。当地の生産者一戸あたりの平均水田面積は100a程度ですから、減反政策で実際に作付出来るのは75aくらいで田んぼからの所得は一年にたった23万円、これは到底、一家が生活できる水準ではありません。面積拡大を図ろうとしても数千万円分の機械購入が必要だったり。残念ながら農業の一般的な現場はこんな状況です。これを危機と言わずして何と言いましょ。わが国の良質な農産物は、今まで小規模生産者が自分の手が届く範囲で手塩にかけていたための品質の良さだったのですが、今や毎年一割ずつ、小規模生産者が消えていっています。将来も自国の農産物を安心して食べ続けていくためには、産地と流通、消費のどこが欠けてもいけません。今まさに真剣に考えなければならない必要な事はたくさんあるのに、国会で審議拒否なんぞしてる場合じゃない、ですよ。



## 「微生物農法」って何のこと？

水田の土の中には沢山の種類、膨大な数の微生物が活動しています。私たち人間のお腹では善玉菌と悪玉菌のバランスが崩れると体調が悪くなりますが、イネにとってのお腹を水田土壌、ととらえたのが微生物農法です。水田の土も微生物のバランスを整えてやるのがとても重要で、そのバランスが崩れるとイネが病気にかかりやすくなったり、生長が上手くいかなかったりします。有機肥料や堆肥で微生物バランスを良好に保つことで、健康で自ら美味しくなる



食べてお得なサービス実施中。

ポイントシールをためて送ると必ずもらえるプレゼント！



お買い上げいただいた商品についてくるシールを集めて専用台紙に貼って送ると、お米などをめれなくプレゼント！ お問い合わせはTel.0120-08-2028まで

## TOPICS

主婦と生活社の「ためしてガッテン」創刊号に、微生物農法米あきたこまち『花輪ばやし』の広告を掲載しています。日常使える知識満載の雑誌ですよ！！

# 生産地から

冬の寒さは2月が最も厳しくなります。零下15度も下回ることのある当地鹿角では、平地でも早朝ダイヤモンドダストが見られることがあります。雪の多さならば大した事はないのですが、雪質は極上で晴天日が多い当地に、是非観光に来てみて下さい。たびたびテレビの全国放送で紹介されている「きりたんぼ鍋」も、発祥は鹿角。本物の伝統食、各家庭で今も普通の食事として食べられている郷土料理「きりたんぼ鍋」を、発祥の地でご堪能下さい。(社)十和田八幡平観光物産協会では「きりたんぼ鍋」の地方発送もありますよ。



十和田湖冬物語は1月30日から2月22日まで。

十和田湖 冬物語  
SNOW AND LIGHT FANTAVISTA



毎日上がる花火や氷のグラスで飲むバー、足湯に炉端焼き、コンサートなど様々な催しが連日開催される。

## こんなお米の使い方はいかが

お米の小袋(2合パック)に写真つきオリジナルシールをつけて演出。



結婚披露宴などで、ライスシャワーならぬお米のプレゼントなどはいかがでしょう。かさばらず感謝の意味のこもった独創的な贈り物として、喜ばれること請け合いです。デザイン制作から行いますので、お気軽にご相談下さい!

こちらのホームページで鹿角地域の様々な観光案内がご覧いただけます。

(社)十和田八幡平観光物産協会

<http://www.ink.or.jp/~kankou18/>

かづのファンクラブ

<http://www2.city.kazuno.akita.jp/fanclub/index.html>

### 菜々の油

人気上昇中! 田んぼの転作から生まれた純国産菜種油。圧搾のみの完全無添加。

300ml 630円 720ml 1,260円



広大な田んぼは完全に雪原となり山も丘も灰白色。透きとおったスカイブルーが映える真冬のど田舎は、想像を超える開放感。

ぜひ一度  
かづの  
鹿角へ遊びに  
来てみて下さ

有限会社 安部金太郎商店  
かづの微生物農法研究会  
事務局

文・写真: 安部 大輔

この「微生物農法研究会便り」のバックナンバーや、毎月発送などのご希望がありましたらご一報下さい。感想もお待ちしています。